

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 31日

事業所名 チャイルドハートかも

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		学習室と活動室を分け集中できる環境作りに取り組んでいる。	室内は狭めだが、ワンフロアの為全体を見守り、支援を行っている。また安全を考慮し、職員を多く配置している。
	2	職員の配置数は適切である	8		配置基準を意識した配置をしている。	配置基準より多く職員を配置している。児童指導員のみならず、他分野での職務経験を持つ職員も配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		8	玄関先に段差はあるが、声掛けを行ったり、少人数での利用を行っている。	バリアフリーが必要な児童の受け入れを実施していない為、玄関の段差やドアの幅が狭いがワンフロアで活動は出来る。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		毎日のミーティングにより、情報や課題の共有を図っている。	月1回のカンファレンスや問題が起こった際は、即日個別のカンファレンスを開き対応している。また、それを支援に反映させている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		アンケート結果を全職員で解析し、解決すべき課題の明確化を図っている。	改善できるところは改善していく方向。物理的に改善困難なことに関しては、うまく代替できないか検討する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		自己評価結果を公表している。	ホームページ上で公開している。また、ニュースレターは会報誌として取り扱っている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8		第三者評価を受けている	苦情解決制度に則り、苦情受付担当者と苦情解決責任者を設置した。不定期ではあるが、第三者の評価も受けている。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		外部研修や研修会の報告会を実施し、職員間で情報の共有化を図っている。	ガイドラインに基づいた勉強会の開始のみならず、有資格者による各分野での勉強会を毎月実施している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		一人ひとりに沿った個別支援計画書を作成している。	行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		国際基準に基づいたFIMを利用している。	国際基準であるFIMの評価シートを使用し、アセスメントとモニタリングを実施している。評価には児童発達支援管理責任者や言語聴覚士等の有資格者が参加している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		ガイドラインに沿った活動を行っている。	行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		職員間で話し合い、日々の活動プログラムを作成している。	日々の活動内容や毎月の外出先を変え、支援を行っている。長期休みでは動物園や博物館などの地域資源を活用している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		長期休暇の課題については、全職員で確認し、完済までのスケジュールや目標を立て、実践できるように支援している。	長期休みは社会資源を活用し社会科見学を多く導入している。長期休暇の課題に至っては、保護者様の要望に合わせ、事業所で整理しすべてこなす児童もいる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8		個別、集団共に児童に合わせて作成している。活動プログラム内容や進め方等について、事前に全職員で打ち合わせを行っている。	然るべき有資格者が適切な評価を行い、個別に支援目標をたてて児童発達支援管理責任者が作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		毎朝ミーティングで確認している。	行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		連絡事項や確認事項など、職員同士で意見を出し合い共有している。	行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		個別支援計画書に基づいた支援記録を行っている。	日々支援記録を作成し、支援内容を振り返ることで支援計画に反映している。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		児童の成長過程がある為、随時行っている。	支援開始前、半年とモニタリングを行っている。また、必要に応じてモニタリングの実施と個別支援計画書の変更を行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8		行っている。業務日誌、連絡帳にも反映させている。	個別支援計画書にガイドラインのすべての項目を反映している。連絡帳や支援記録もガイドラインに沿って記録している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		管理者及び児童発達支援管理責任者が参加する体制をとっている。	管理者および児童発達支援管理責任者が参加している。また、児童と関わる時間の長い職員や有資格者も必要に応じて参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8		一人ひとりの児童の利用状況を伝え、情報を共有している。	学校の担任との直接的な情報共有に加え、利用確定届や時間割を活用し連絡調整も行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8		協力医療機関と連携を取っている。	現在、医療的ケアの必要な児童の受け入れは行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8		担当者会議などで情報共有を行っている。	療育センター及び保育園、幼稚園との連絡調整を行っている。また、担当者会議に当該児童の園長に参加してもらった事もある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		8	現在、学校を卒業する児童はいない。	該当児童がない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		密に連絡をとれる体制作りを努めている。	外部研修への参加を促し、職員間で情報を共有をしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		8	個人情報の観点から交流の機会はない。個人情報の観点から現在は行っていない。	外部児童との交流に消極的な保護者様もいるため交流を制限するなど配慮している。必要に応じて検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		8	積極的に参加できるような体制づくりをしている。	勉強会や研修には参加している。また、伝達講習も行っている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		担当者会議や送迎時など日々の状況を伝え合うよう努めている。	日々保護者様との情報の共有と共通理解を図れる様努めているが、不足している部分に関しては、管理者、児童発達支援管理責任者を中心に改善を図っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8		情報を共有しています。	知識不足な職員に関しては研修を重ねてスキルの向上を目指したい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に保護者の方が理解しやすいようにしっかりと行っている。	契約時に重要事項説明書等を用いて説明を行っている。支援内容は保護者の意向をくみ取れる様努めていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		保護者様から話を聞いて支援に努めている。	保護者様からの悩みや通学等の相談があったときは、時間をとって、相談にのっている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8		行なっている。	継続して行いたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		説明、情報提供を行っている。	苦情受付窓口や苦情解決責任者を設置しており、苦情については迅速に行っている。解決方法を職員で話し合いを行いすぐに伝える様にしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		日々行っている。	毎月の行事予定や会報誌等を発行している。
	35	個人情報に十分注意している	8		利用者ごとに個別に情報を送っている	十分に配慮している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		不穏時や自傷・他害を認めた際は、スペースを確保し、落ち着かせるように対応している。	児童には言語的、非言語的アプローチ及び見える化を行っている。保護者へは情報伝達の為の努力は行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		8	行事への参加は行っていないが、地域行事の情報は収集するようにしている	個人情報保護の観点から現在は行っていない。また、それを望まない保護者が多数いることも要因の一つになっている。閉鎖的な事業所にならないよう外部講師を招くなど地域に根差す事業作りに尽力していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		地域に合わせて、マニュアル作成をしている。	職員に対しては、個人研修を行っている。また、緊急連絡網を作成し、事業所内に掲示している。保護者様へも契約時にマニュアルの説明、閲覧をしてもらっている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		年2回の避難訓練計画を立て、計画的に実施できるようスケジュール調整をしている。	半年に1回の避難訓練を行っている。また、防犯カメラの設置等を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		定期的に研修を行い、自己研鑽に励んでいる。	研修後、評価票を用いて自己評価と振り返りを行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8		業務日誌への記載を心掛けている。場所・時間を考慮し、基本的に身体拘束おこなっていない	3原則に沿って行うが、身体拘束した事例はない。身体拘束については説明後に保護者より同意書を頂いている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		行なっている。	医師の指示書を頂くようなアレルギーのある児童は来所していない。ただ、軽度のアレルギーに関してはアセスメント時に聞き取りし、活動内でアレルギーを引き起こすようなプログラム作りはしていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		作成後はオーナー、本部に報告し、事後対策は必ず行っている。	インシデント、アクシデントも含めてその日のうちに作成し、全職員に周知している。また、作成者は発見者、管理者が確認しファイルとしていつでも閲覧できるようにしている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 3月 31日

事業所名 チャイルドハートかも 保護者等数(児童数) 16名(兄弟児含む) 回収数 16名 割合 100%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16					・活動を時間帯や場所を分けて密にならないよう心掛けております。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	16					・配置基準より多くの専門職を幅広く配置し、支援を行っております。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	14	2				
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	16					・本人や保護者様のニーズを汲み取り支援が提供できるよう努めさせていただきます。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	16					・季節や月の替わりを感じていただきながら楽しんで取り組めるプログラム作っています。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	11	2	1	2		・感染症対策や個人情報の観点から慎重に検討していきたいと思っております。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16					・今後もしっかりと伝えできるよう努めてまいります。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	15		1			・送迎時や連絡帳で子どもの状況を伝え、共有しています。今後も子どもの状況を共有できる体制をつくっていききたいと思っております。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16					・送迎時では話せない分は担当者会議や日々のご連絡のやり取りにてお話を聞きしています。今後も寄り添った支援が
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	13	3				
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	16					・今後も迅速な対応に努めてまいります。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	15		1			・今後も保護者様と随時連絡を取れるようにしていきたいと思っております。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	16					・事業所評価の結果等はホームページにて公表を行っております。
14 個人情報に十分注意しているか	16					・全職員、個人情報に十分注意して支援させていただいております。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	13		3			・契約時に説明させていただいておりますが、今後も定期的にご説明する機会を設けたいと思っております。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	13		3			・年に2回避難訓練を実施しております。利用屆等でお知らせしていきます。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	16					・今後も安心して来所していただけるよう努めてまいります。
	18 事業所の支援に満足しているか	16					・今後も満足していただけるよう保護者様のご要望や職員のスキル向上を目指して行きた

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

